

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-169	13-127	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
<p>The epidemiology of substance use among street children in resource-constrained settings: a systematic review and meta-analysis.</p> <p>十分な文献がない中でのストリートチルドレンの薬物乱用の疫学：システマティックレビューとメタアナリシス</p>		
執筆者		
Embleton L, Mwangi A, Vreeman R, Ayuku D, Braitstein P.		
掲載誌		
Addiction. 2013 Oct;108(10):1722-33. doi: 10.1111/add.12252.		
キーワード		PMID
ストリートチルドレン、資源制約条件下、薬物使用、システマティックレビュー、揮発性溶剤		23844822
要 旨		
<p>目的： 文献的制約がある中ストリートチルドレンと薬物使用について公表された文献を基に収集して解析を行った。</p> <p>方法： このメタアナリシスの基準に合致する文献を系統的に検索した。全体の薬物使用率と 95%信頼区間 (CI) は地域別および薬物別に生涯の薬物使用についてランダム効果モデルを用いて算出した。</p> <p>結果： 検索された 22 カ国からの 50 の研究報告についてレビューを行った。27 の研究報告から得られたメタアナリシスの結果からは生涯の薬物使用率は 60% (95%CI=51-69%) であった。14 カ国からのストリートチルドレンに対する調査では吸入物質を使用した子供の割合は 47% (95%CI=36-58%) であった。本レビューによって、ストリートチルドレンの薬物乱用に関連する HIV や致死率、身体的、精神的健康面でのアウトカムに関するデータの記述など、論文間での乖離が大きいことが明らかになった。</p> <p>結論： 十分な文献がない中で、ストリートチルドレンの生涯薬物使用率は高いことが報告された。薬物としては吸入物質が最も多く、続いてタバコ、アルコール、マリファナの順であった。</p>		